

表紙の外れた本の修理

～簡便な方法～



ハードカバーの資料で、ノドの部分が破損して、表紙と中身が離れてしまったが、中身の綴じはしっかりしていて表紙もそのまま使えるという資料を修理する場合の簡便な方法を紹介します。

なお、本格的な修理方法については『防ぐ技術・治す技術』をご覧ください。この方法は製本しなおすわけではないので、強度に問題があります。強度

をさほど必要としない資料に適応してください。

手順

1 表紙と中身を分離する

2 遊び見返しを中身から剥がす

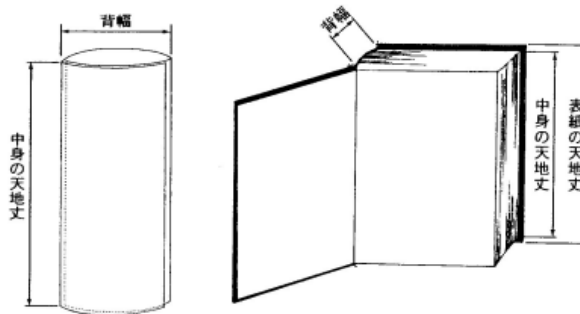


3 中身の背をきれいにする

中身の背に付いている接着剤などの滓をできるだけ取り除き、きれいにする。剥がせないで浮いているものや、花布はきちんと糊付けしておく。

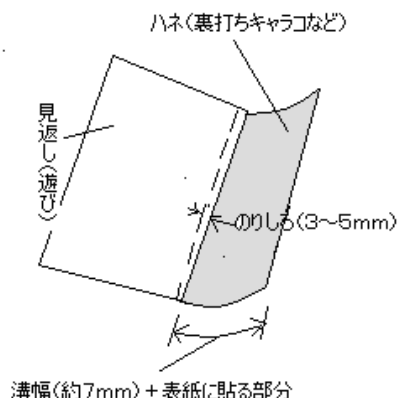
4 クータを作る

クータとは中性紙で作る右図のような平にした紙筒である。背幅の3倍の紙を三つ折りにして、重なる部分を貼り合わせて作る。



5 見返しにハネを貼る

中身からはがした遊び見返しの裏のノド側に裏打ちキャラコや厚手の和紙を、のりしろ5mm程度で貼ってハネを作る。



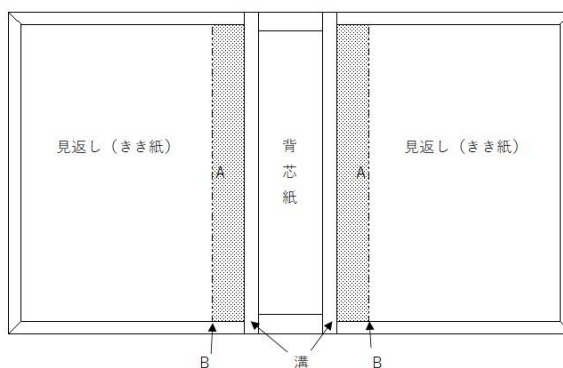
6 見返しを中身に貼る

ハネのついた遊び見返しを、中身のノドにのりしろ5mm程度で貼り戻す。

7 表紙の準備

中身を外した表紙のノド側(A)には、見返し(きき紙)の下に古い寒冷紗が残っている。Bの線からカッターで切れ目を入れて、A部分の見返しや寒冷紗を、表紙ボードから剥がし取る。

見返しに絵や図等があり、それらを残しておきたい場合は、見返しのA部分を持ち上げ、もぐりこんでいる寒冷紗だけを取り除く。



8 中身と表紙をつなぐ

④のクータを⑦の背芯紙の上に貼り、よく擦って接着させる。次に溝とクータを付けた背の部分に糊をぬり、⑥の中身と表紙をつなぐ。よく擦って、よく乾かす。溝には編み棒などを当てて、溝部分もしっかりと付ける。



9 見返しの仕上げ

ハネを表紙に貼り付け乾かす。

見返し(きき紙)に絵や図があり、それらを残したい場合は、ハネは見返し(きき紙)の下に潜り込ませ、糊付けする。

